

70号

1998.9

ミヤマコゴメグサ↑

雲と天気の話 (その三)

加藤寿芽 (知多支部)

「観天望気」とは、大空をぐるっと見渡して、空の色・浮かぶ雲の形・風の流れなどの様子から空模様を予想することをいいます。万葉集には

「わたつみの豊旗雲に入り日さし

今宵の月夜あきらけくこそ」

という歌があります。また、新約聖書には「イエスいいたもう。夕に汝ら“空あかきゆえに晴れたらん”といい、また朝には“空あかくして曇あるゆえに風雨ならん”という……」とあります。

古今、洋の東西を問わず観天望気を行っていたのです。

天気を予測するには、雲の様子が大きなポイントになります。今回は前線とか気圧配置によりどのように雲ができるかをまとめてみました。

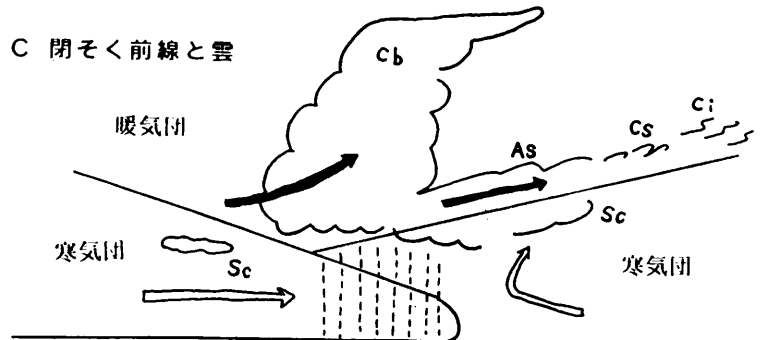
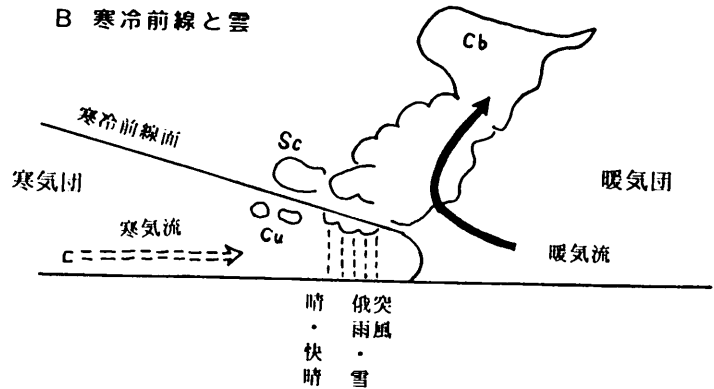
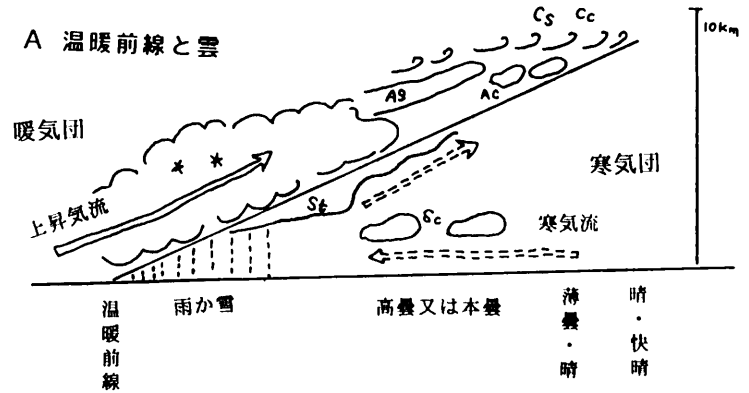
● 前線と雲

前線には、温暖前線・寒冷前線・閉そく前線・停滞前線などがあります。

今年は、東海地方では梅雨が明けそうで、なかなか明けないという年でした。梅雨にも様々な形があり、それによって「梅雨入り」「梅雨明け」「戻り梅雨」「から梅雨」「梅雨の中休み」などの言葉があります。これらは十種雲形から観られる現象ではなくて、「前線」や「気団」「気

圧配置」などの現象から言われる言葉です。

これらの組み合わせで、日本の『四季の天気』を表現することができます。下の図が前線の形とそれに伴う雲の様子です。雲の符号は、前回の表にありますので、それを見てください。



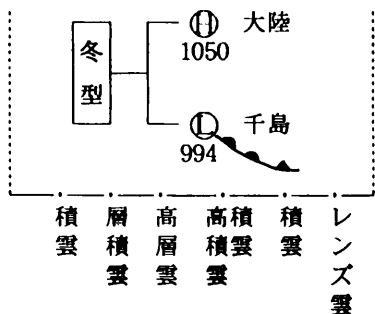
● 気圧配置と雲

かつて、気圧配置と雲の関係を調べたことがあります。この作業を通していろいろな発

見がありました。その一部を次に示します。

雲の変化のようすがわかると思います。なお、最初の図は、表の見方を説明したものです。

〈表〉



← 気圧配置

← 雲の記録

〈説明〉

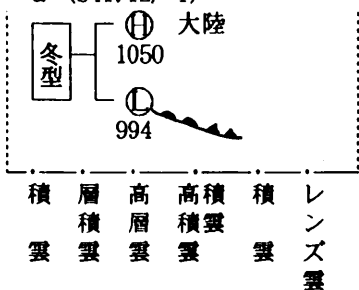
大陸に1050mbの高気圧があり、千島に994mbの低気圧があって前線を伴うことを示す。

(1日に2つ記してあるときは、左側が午前の状態、右側が午後の状態)

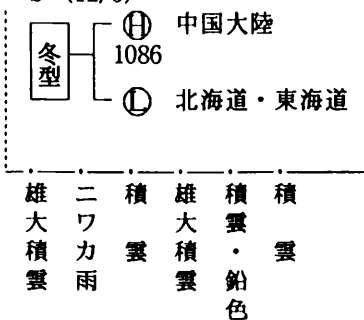
午前4時頃から午後6時頃までの変化を示す。(区分は、2～3時間おき)

事例A 西高東低型(冬型気圧配置)

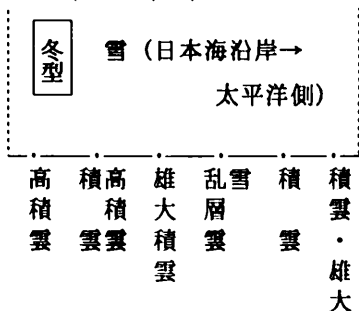
a (S41.12/1)



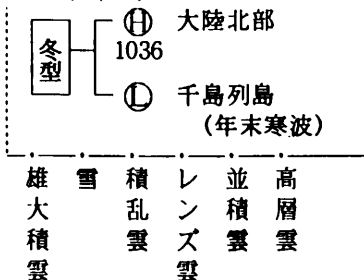
b (12/6)



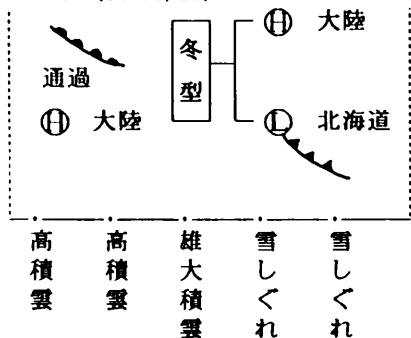
c (S41.12/27)



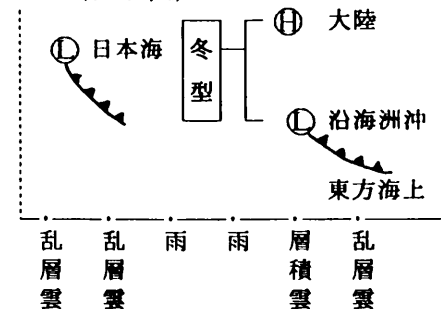
d (12/28)



e (S42.3/23)



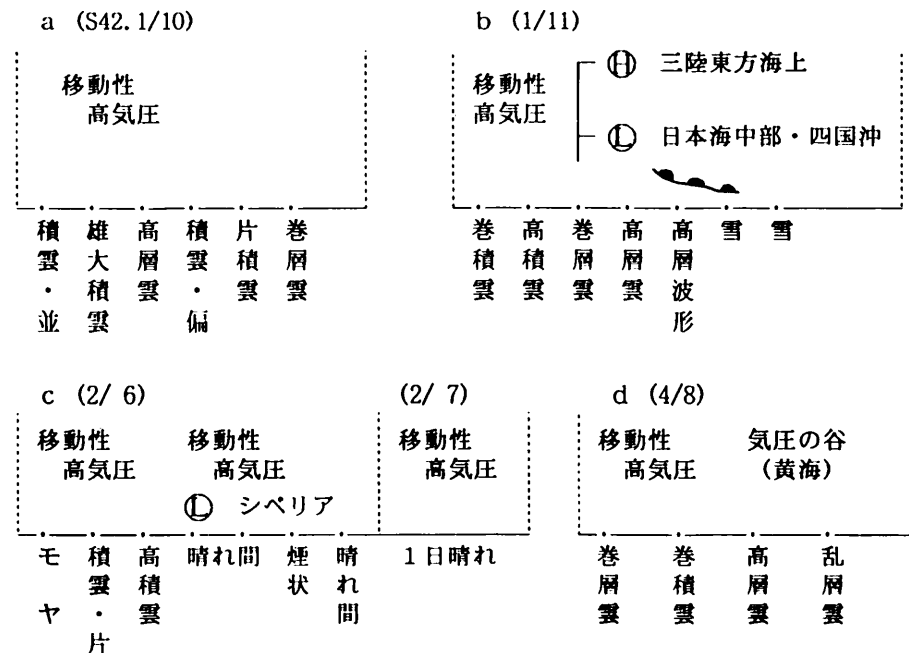
f (S42.4/4)



※ 冬型気圧配置の特徴

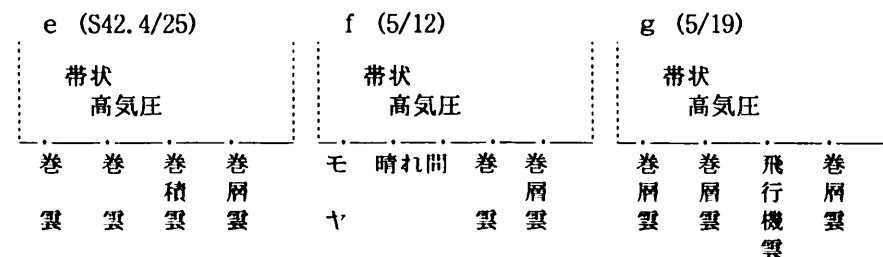
- ① 積雲系の雲が多い。(例：積雲(並、雄大)、地形性(堤雲))
- ② レンズ雲 …… 上空で風が強いときに現れる。
- ③ 降雨 …… 太平洋側では極めて少ない。
- ④ 雪 …… 等圧線が南北になり、数が多いときには太平洋側まで降雪がある。
- ⑤ 春先の場合 …… 4月ともなれば、冬型気圧配置でも雪ではなく雨に変わる。

事例B 移動性高気圧、帯型高気圧、大陸高気圧



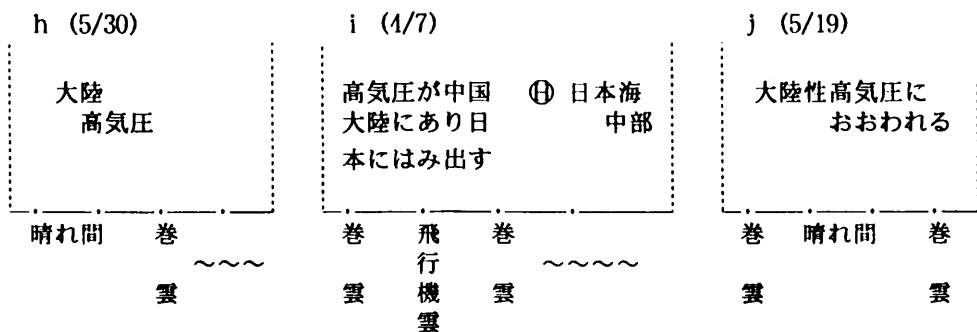
※ 移動性高気圧の特徴

- ① 片積雲が現れる。
- ② 巻層雲、巻積雲(上層雲)や高積雲(中層雲)が多く現れる。
- ③ 降雨現象は希である。
- ④ モヤがかかることがある。



※ 带状高気圧の特徴

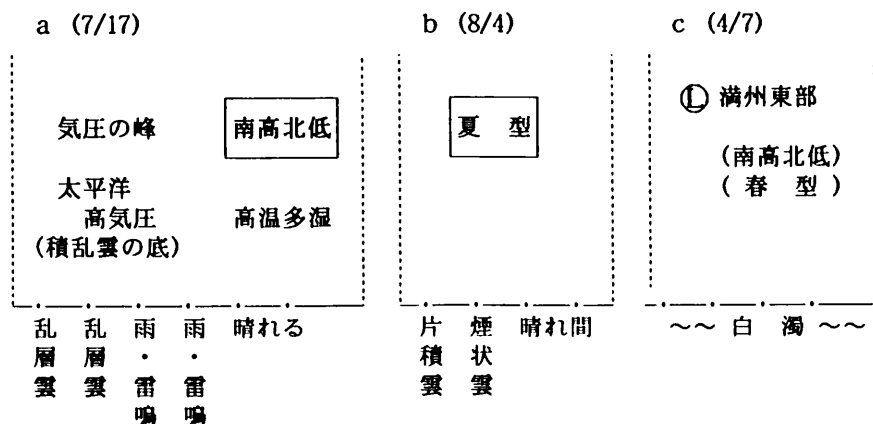
- ① 上層雲の巻雲、巻層雲、巻積雲のみに被われる。
- ② 中層雲、下積雲、積雲系のものは現れない。



※ 大陸高気圧の特徴

- ① 上層雲（巻雲、巻層雲、巻積雲）が多く見られる。
- ② 快晴となる日が多い。

事例C 南高北低型（夏型気圧配置）

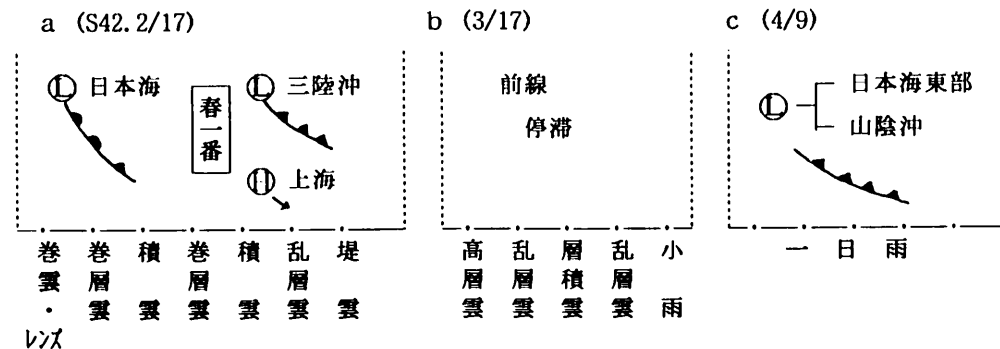


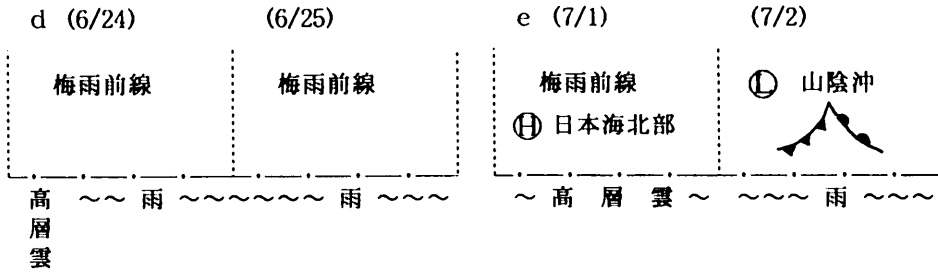
※ 南高北低型の特徴

- ① 積雲系のものが多い。
- ② 積乱雲が頭上にきて降雨がある時、乱層雲のように観察される。
- ③ 雷……雷鳴、雷光現象あり。
- ④ 煙状雲も発生する。



事例D 前線と春一番

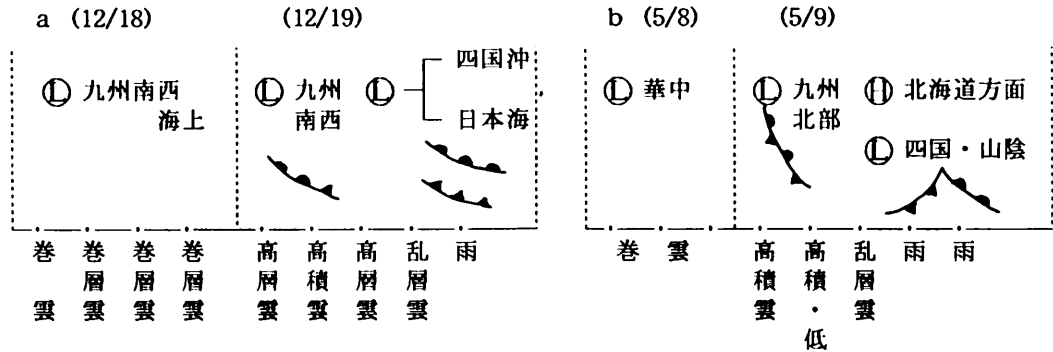




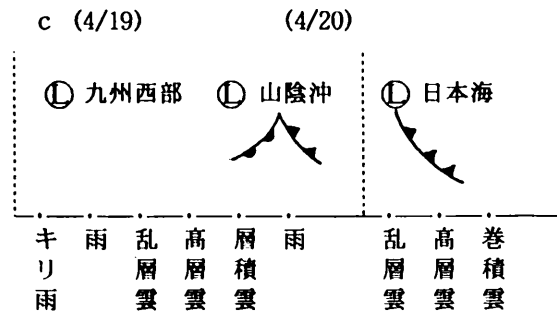
- ※ 前線（菜種前線、梅雨前線、秋雨前線）の特徴
- ① 上層雲より中層雲、下層雲が多く観察される。
 - ② 降雨現象を伴う場合が多い。

事例E 低気圧

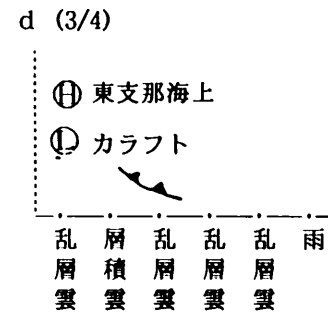
(1) 九州 → 南岸沿い



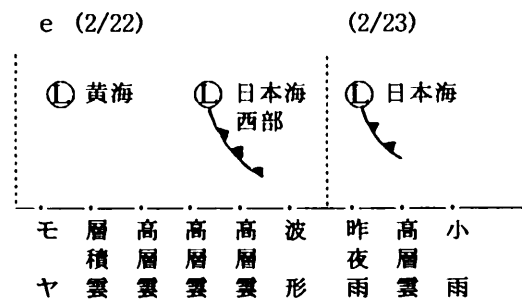
(2) 九州 → 日本海



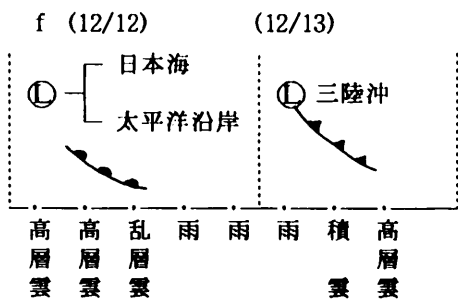
(3) 気圧の谷



(4) 中国大陸 → 日本海



(5) 日本海と太平洋沿岸



※ 低気圧の特徴

① 九州 → 本州南岸沿いに移動した場合

- ・低気圧が九州にあるときは半田付近は巻雲が観察され、接近するにつれて高層雲～乱層雲と変化していく。教科書に出てくるモデルはこの場合が多い。

② 気圧の谷が接近する場合

- ・下層雲が多く現れ、降雨を伴うことが多い。

③ 九州 → 日本海、中国大陸 → 日本海に移動した場合

- ・中層雲、下層雲が現れる。降雨を伴う。
- ・三陸沖へ低気圧が去れば、下層雲～中層雲と変化していく。

③ 低気圧が日本海と太平洋沿岸に2つ又は3つある場合

- ・中層雲、下層雲が現れ、降雨を伴う。雨量も多い。

事例F 台風

a (S42.7/25) (7/26)				b (7/12) (7/13)			
台風 10号 ① 九州 太平洋高気圧		台風 ① 九州 台風 ① 九州西海上		台風 22号 ① 南海上 前線		台風 ① 東海地方 台風 ① 南方海上	
積雲	雄大積雲	巻雲	積雲	高積雲	層積雲	雄大積雲	積雲
		~~~~	巻雲 (台風からの羽毛状の巻雲)			雨	乱層雲
						ニワカ雨	乱層雲
							ニワカ雨
c (8/20) (8/21) (8/22)							
① 東海上 台風 18号 ① 四国南 600km		台風 ① 四国南 洋上 台風 ① 紀伊半島 接近		台風 ① 紀伊半島 通過中			
大雨・雷鳴	並雨	高層雲	雨	雨	乱層雲	乱層雲	積乱雲
						ニワカ雨	雨 ~

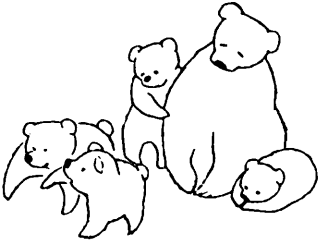


## ※ 台風の場合の特徴

- ① 台風が遠く（九州）にある場合(a)、台風の上層よりの羽毛状の巻雲が観察された例。
- ② 台風が接近した例(b・c)
  - ・中層雲～下層雲と変化し、にわか雨や降雨を伴う。雷鳴がする場合もある。
  - ・積乱雲が観察される。

◎ 巻雲・巻積雲・巻層雲は、当時は絹雲・絹積雲・絹層雲と表記していたが、ここではわかり易いように改めた。

先日仕事で荘川村へ出かけたときに、たまたま村長さんと教育委員会の若い職員の方とお話する機会がありました。その時に二人の方が異口同音に、最近では自然志向とか自然がブームで都会から多くの人々がやって来るようになった、しかし彼らは4WDの車で村の人も入らない河原に乗り入れてバーベキューをしたり、川に車を入れて洗車したりする、それも車用の強力な洗剤で川を汚染する、そして河原には生ゴミや食べ残しを散乱させたまま帰ってしまう、その結果川で今まで釣れていたアユやイワナが全然釣れなくなってしまう、河原にはウジがわき、ハエが飛び回ってしまう、周りの山から残飯をあさりにカラスが集まってきた為に、カワガラスやヤマセミが見られなくなってしまうと言われました。



中には近くの畑からトウモロコシや野菜を無断で取って行ってしまう、畑の中をマウンテンバイクで走り回るなどの被害も起きているようです。そして山では村の共有地で山菜を取る場所に林道の車止めの柵を壊して入り、一本残らず根こそぎ取って行ってしまいます。村の人達は来年を考えて根を残したり、株を残して取ったりしてきたのをあっと言う間に只の荒れ地にしてしまう。入り口の柵を人の力では壊せないような頑丈な物にしたら4WDのウインチでワイヤーを掛けて引き倒してしまうそうです。

そしてやはり食事での生ゴミや残飯を残して帰ってしまうためにそれを食べたクマがすっかり味をしめて、今まではクマ等居なかったのに最近では熊が出没して山菜を採りに入った村人が熊の被害に会うようになったと聞かされました

たまたま町から来る人達が激しい雷雨に会って民宿に避難して泊まった時にしていた話では、都会の自然観察会で山菜をキノコを採って食べたりすることを教えて貰って山菜や野草を採ることを覚えたそうですが、篠田さんも自然観察指導員ですがそんなことを教えているのですか？もし教えるのなら山菜や野草と言えども必ず持ち主があり、勝手に採ってはいけないと教えてください。それでなくても都会の人達は緑や山やきれいな水やそれらをまかなう自然や山を私たちだけに面倒を見させておいてその恩恵だけを受けておいて、山を荒らすな、自然を守れと私たちに文句を言っている自分勝手な存在なんですときつく叱られてしまいました。

戸隠に仕事に行ったときも地元の民宿に泊まったときに民宿のご主人から同じような事を言われました。戸隠の民宿はお客さんに地元の山菜を出すのが特長なのだそうですが最近では都会から季節になるとドッと車で押し寄せてきて、地元の大切に採っている山菜を根こそぎ採ってしまうそうです。年々採れなくなってきた困っているそうです。自然保護の仕事をしているならそのようなマナーをしっかりと教えてくださいと言われました。





私たちの自然観察会での活動がかえって自然破壊に結び付いているのではないかと少し不安になってしまいました。自然の素晴らしさや自然を体験させる事は大切なのですが、その前に自然との接し方やルールを知って貰うことが必要のようです。それとも私たち自然観察指導員がそのあたりのマナーやルールを、基本からし

っかりと学ぶことから始める必要があるかもしれませんね。

あなたはどのように思いますか？

私ももう一度自然との付き合い方を基礎から学び直そうと思っています。自然を大切にすることを教えられるような自然観察会をするために原点に帰って勉強をしてみようと思います。

---

## 子供とあそぼう会

金谷 真奈美 (名古屋支部)

---

私たちの会は、4～8才という感受性の豊かな子供たちを対象に自然観察会を行っています。この会を通じて子供たちが自然の大切さに気づき、自分たちが守っていかなければならないことが何か、少しでも考えるきっかけになってくれることを目的として観察会を行ってきました。

まだ、平成10年7月11日に5回目の観察会を終えたばかりですが、スタッフの中でも何が伝えたいのか、自分の考えを押しつけるのではなくいっしょに考えていくにはどのような方法がいいのか、毎回考えさせられることばかりです。参加者がいろいろ得るものがある観察会というだけでなく、スタッフ自身もより勉強になるような観察会をこれからも開いていくことが目標です。

### 第5回目の観察会についての報告

日 時 7月11日(土)

テ マ 蛍ウオッチング

～日暮れの森で遊ぼう～

スタッフ 17名(当日のみのスタッフ含む)

参加者 42名

場 所 瀬戸の海上の森(万博予定地)

時 間 16:00～20:30

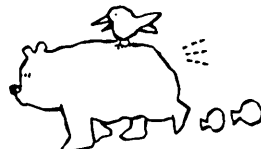
森の中でテーマを決めて歩いたり、蛍のクイズや紙芝居を通して蛍の生活しやすい場所はどういった所か、遊びながら考える機会をもうけました。そして、そういった場所が壊されていくことに対して疑問を持ってくれることを願って会を終わりました。参加者の反応ですがスタッフの投げかけた質問に生き生きと返事を返してくれる場面がいくつかあったばかりでなく、子供たち自らいくつかの不思議を見つけだしていくようになりました。また、蛍も平家蛍ですがたくさん見ることができ、まずは成功したと思います。

スタッフは、20代・30代の比較的若い年齢層が中心となって行っています。忙しい仲間が多く、スタッフの数も変動していますが一緒に頑張りたいという意欲的のある方は仲間としていつでも受け入れています。

### 連絡先

(052) 764-2160 [夜間]

子供とあそぼう会代表 金谷 真奈美



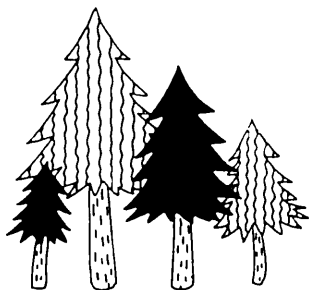
## あなたはビン派かカン派か

編集 部

### ー 氾濫するゴミ ー

町の中のいたる所でゴミと出会います。タバコの吸い殻は言うに及ばず、空き缶、空き瓶、紙屑、ビニール類にパック類、コンビニの弁当の空箱、使い古しの家具、家電製品や放置自転車、放置自動車まであります。使わなくなったというだけの理由で、あらゆる生活用品がまさに混在、混濁した状態でゴミとなって氾濫しています。

これはなにも『都市』だけのことではありません。私たちの自然観察会の場においても同じような現象が見られるのではないのでしょうか。観察会の場にゴミは相応しくないのですが（そもそも相応しい所なんてあるはずもないのですが）、観察会に参加していてゴミを見ないときはありません。そんな時、私たちは自然観察指導員としてどんな対応をとっているのでしょうか。



### ー ゴミの観察 ー

観察会でもゴミをテーマに取り上げることは海岸の漂着物などで既に行われています。海岸では、外国船から捨てられたらしい物や、川から流れて海まで運ばれた物などがあり、なかなか面白い観察ができます。漂着物を、自然の物（木の実、木片等）、遠くから来た物、その場所に捨てられた物などに分類して集めてみる方法などがあります。

川や公園など人が集まる場所でもゴミの観察

ができます。ある程度集めて、大人の捨てたゴミと子どもの捨てたゴミに分けてどちらが多いかみたり、どんな人がどんな状況で捨てた物か考えてみたりできます。空き缶が多ければ、人気のある飲み物コンテストになるでしょうし、まとまって捨ててあったゴミからは、例えば弁当殻なら日付からいつ何人位の人が捨てたか推定できます。（休日の家族連れとか、平日の昼休みに来たものなど）

ゴミの捨ててある状況から、どんな物が分解しにくいとか、分解していく様子などを観察できます。煙草のフィルターなどは意外に長い期間そのまま残っているものです。新聞紙や雑誌などでは、その下の草が枯れていく様子が、新聞等の日付との関係でわかるでしょう。また、ゴミに集まってきたり、隠れ場所になっている昆虫なども観察できます。

こうしたことから、ゴミが生物などに与える影響を考えてみたいものです。食物を包んであったビニール等を動物が食べて悪い影響を与えることも考えられます。常時ゴミが捨ててある場所（ゴミ箱でも）にはカラスなどが集まり、そのカラスが他の鳥の卵や雛を襲ったりすることもあります。山などで、腐ってしまうゴミなら捨ててもよいように思っている人もいますが、その場所のない食物を動物に与えることになり、問題があります。自然に入る人が増えているこの頃は、十分気をつけねばならないでしょう。

ゴミが捨てられる場所も観察対象になると思われます。休息した場所にそのままゴミを捨てることもあるでしょうが、どこか目立ちにくい場所に捨てていく例も多いようです。なぜその場所が選ばれたか考えてみたり、ゴミが他のゴミを呼び寄せる様子を見たりできるかもしれません（どれが最初に捨てられたのだろう）。

林の縁などに電化製品など大型のゴミが捨てられていることがあります。ゴミを捨てる側に罪があることは当然で、自然に対する関心を持っていない人の仕業でしょう。しかし、捨てられる場所にも問題はないか考えてみるのはどうでしょうか。その場所の自然が人間との関わりを失い、藪のような人の好きになれない自然になってしまったことが背景としてあると思われるます。

その他、道路端の水田などに捨てられた空き缶等は、耕作者に大きな迷惑をかけるものであるとか、川岸に捨てられた釣糸は、鳥の命を奪うことも多いことなど話しておくことも必要でしょう。

なお、ゴミの観察をした場合、原則として集めたゴミや観察の対象としたゴミは持ち帰るべきでしょう。



#### — びんと缶 —

ゴミの持ち帰りなども広報されていますし、観察会で捨てられているゴミを見て参加者にゴミを捨てることの問題を伝えることはできますが、ゴミになる前に考えてみたいこともあります。

先日、「ビンの方が環境にやさしい、と考えている人は8割近く。それなのに実際は缶で購入する人が7割以上。」という新聞記事がありました。ビール瓶の場合は、ほぼ100%が工場に戻り、平均寿命は8年で、家庭と工場の間を約24回行き来するそうです。しかし、ビンは重いのが欠点で、最近は薄くして従来より2割ほど軽量化したり、缶ビール感覚で飲めるような小型のビンが開発されるなどしています。ビンは環境にやさしいと言われており、消費者

もそれなりにそのことは理解していても、実際は缶の利便性が歓迎されてしまうようです。

利用したものはいずれ何らかの形でゴミになります。従って、リサイクル出来るものを使うとか、ゴミになりにくい配慮（お茶の缶より水筒のお茶にするなど）、さらには省資源につながる物を使うことが大切になります。それはわかっていても、実践するのは難しいものです。いきなり徹底してやろうというより、少しずつでも改善していくように努めるのが凡人の方法でしょうか。ともあれ、『面倒くさいは環境の敵』と覚えないものです。

#### 缶のリサイクルについて

ビール瓶はビール瓶として何度も再利用されますが、缶はどうでしょう？

缶には鉄に様々な成分を混ぜて作るスチール缶と、より高価なアルミ缶があります。スチール缶の材料となるスチール板には成分に厳重な規格があり、スチール缶を再生しても缶の規格に合うようなスチール板にはあまりできないようで、建築用の鉄筋棒鋼などの鋼材に生まれ変わります。

また、アルミ缶の場合は回収したアルミ缶のおよそ3分の1が缶の材料に使われますが、残りは鋳物（ダイカスト）の地金になることが多く、自動車部品などに加工されます。アルミ缶を作るには大量の電気を使います。例えば、ビール缶(350ml、20g)を作るには約400whの電気を使い、19インチのテレビを1時間見るのに約100whを使いますから、約4時間TVを見ていることに匹敵します。ところが、回収したアルミ缶では約12whの電気ですみます。なんと、ポーキサイトから作る時に比べて約3%の電気でよいことになります。

(近藤、佐藤)

## 夜の道

藤原優年（奥三河・東三河支部）

今年の4月より勤務が変わり、川のすぐ近くの道をよく通るようになった。そんな川沿いの帰り道、ヘッドライトに照らされる無数の虫たちに出会う。ガの仲間や甲虫の仲間・・・・・・時には鳥の仲間では？とも思える姿も・・・・・・ライトに照らしだされる生物たちは、モノクロの映像で流れ星のようにすぐに闇夜に消えていく。しかし、車に衝突するのも少なくない。申し訳ないと思いながら車を運転しているが、宮澤賢治の「ヨダカの星」のヨダカのような思いである。

次の朝、同じ道を通っても昨日の虫たちは見当たらないが、カエルやヘビなどが道に横たわっていたりする。キツネも見ることがある。川の周りには、それだけ豊かな生態系が存在している証拠でもある。

しかし、そんな自然も年々減少・・・車による虫たちの交通事故以上に開発や整備工事のため生物たちを消滅させているが、直接目には見えないため、そんな壊滅的殺生に気がつかない場合も多い。

風景を見ただけで、そこに生活している生物たちの営みが目に浮かぶような自然の見方をしたいものだと思う。自然の豊かな道を通るのは幸いであるが、よそ見をしないようにと思いながら通勤しているこの頃である。



自然なにかとアンケート 5-2

## 里山の自然をどう考えますか

近藤記巳子（名古屋支部）

### 好きな場所と理由

小川と野辺の道、^{かみ}上から^{しも}下へと流れる水辺は、安らぎを感じさせる。野辺の道は、四季折々の花が咲き、虫たちのドラマがあるので。

### 里山について心配なこと

開発のターゲットになりやすいのは、あまりにも身近な自然で、人々の心がそこにはないからなのではないかと思う。

### 里山をどう残したら良いか

身近な自然の大切さをあらためて考える場所を多くの人々に提案し、今の時代にふさわしい里山とのかかわり、活用を考えてもらう。



# 山びこ広場

## 【冊子紹介】

### ★東海財団の発行冊子

（財）東海財団が今まで発行した次の冊子は、まだ在庫があります。冊子は無料（東海 of 自然史を除く）ですが、送料として下記の額の切手を送付する必要があります。

- ・「東海 of 天然記念物」（平成6年発行）
- ・「関東 of 天然記念物」（平成8年発行）
- ・「東海 of 天然記念物」（平成10年発行）
- ・「私の散歩道（名古屋）」（昭和56年発行）
- ・「私の散歩道（愛知尾張）」（昭和59年発行）
- ・「私の散歩道（愛知三河）」（昭和59年発行）
- ・「東海 of 美林」（平成2年発行）
- ・「東海自然歩道てくてくガイド（東海編）」（平成2年発行）
- ・「東海自然歩道てくてくガイド（関東編）」（平成3年発行）
- ・「東海自然歩道てくてくガイド（関西編）」（平成4年発行）
- ・「木曾三川」（昭和62年発行）
- ・「東海 of 自然史」（平成2年発行）P.390  
（定価：6,000円 送料：約520円）

### 【冊子送料】

1冊 200円、2冊 240円、3冊 340円

（冊子の厚さにより異なりますが、おおむね前記の範囲内です。）

### *「東海財団」

名古屋市中区錦3-21-24 東海銀行本店内

☎460-0003 ☎052-211-0909

〈事務局〉

※ このコーナーは会員の皆さんの情報交換の場所です。会員に呼びかけたいこと、催し物、紹介等何にでもお使いください。自然関係意外でも結構です。

## ★「三河の植物」

会員の熊谷尚久さんが「三河の植物」という本を発行されました。各地を丹念に調査された結果の労作です。

内容は、三河 of 自然環境（地質、気候等）、三河 of 植生（植物地理学からみた植生、地形環境と植生）、三河 of 植生を特徴づける植物、自然観察地紹介などです。

植物の解説には分布図などもかなりつけられています。

（B5判、P.210、本代3,000円、送料340円）

*熊谷さんの住所 新城市宮ノ後20-2

☎441-1378 ☎05362-3-5244

〈事務局〉

## 【教えてください】



今年5月末、岐阜県 of 高峰山に登った時のことです。林道脇 of 低木に、こんなものがくっついていてのを見つけました。白いドーナツ状 of ものがずらりと並んでいます。太さは2mm位、伸ばすと長さ5cm程、引っ張るとガムのようにグニャーと伸びます。

雨が降り出し、急いでいたので、良く観察もせず帰ってきてしまったのが残念です。

一体、何だったのか、今も気になります。どなたか教えてください。

〈加藤和子（知多支部）〉

（ご本人または編集部までお願いします。）

## 事務局から

### 〔行事結果〕

#### ★ 基礎研修会「ビオトープについて」

〔期日〕平成10年7月11日(土)

〔場所〕愛知県スポーツ会館 (出席12名)

〔講師〕尾平さん、松尾さん

〔内容〕ビオトープの起源、考え方、事例などについての話がありました。市民が自然に親しむものとしてのビオトープは意味があるでしょうが、ビオトープに過大な目的を持たせるには十分な検討が必要と思われます。

#### ★ 研究会「里山の管理について①」

〔期日〕平成10年8月2日(日)

〔場所〕中小企業センター (出席8名)

〔内容〕第1回は、「里山の現状」として、県下の里山の面積、経緯、関東弁護士会の提言などについて意見交換を行いました。里山を現状のまま置くことの是非について、生態的な観点からの議論などがありました。

### 〔指導員の集い〕

自然観察指導員20周年記念のフォローアップ研修と交流会が行われます。参加希望者は、NACS-J又は協議会事務局(佐藤)までどうぞ。

●期日：平成10年9月12日(土)～13日(日)

●場所：箕面市 エルサンティみのお山荘

●参加費：11,000円

●内容：講演「やさしくわかる自然保護」村杉幸子、指導員活動報告、パネルディスカッション、分散会、交流会

### 〔研修会の案内〕

#### ★ 自然解説指導者研修会(環境庁)

自然解説活動を実践する者を対象とした研修会が次のように開催されます。参加費用は

いずれも約24,000円です。

申込は、県の推薦によることとなっており、希望者及び問合せは事務局(佐藤)までご連絡ください。

〔実践研修〕

●期日：平成10年10月26日(月)～29日(木)

●場所：山梨県高根町清里 キープ協会

●内容：自然解説等プログラムの作成(講義および実習)

●申込：平成10年9月9日まで

〔フォローアップ研修〕

●期日：平成10年12月8日(火)～11日(金)

●場所：山梨県高根町清里 キープ協会

●内容：自然解説等プログラムの作成・評価  
各自の抱える課題の解決等

●申込：平成10年10月15日まで

〔企画担当者研修〕

●期日：平成11年2月9日(火)～12日(金)

●場所：東京都渋谷区オリンピック記念公園

●内容：自然ふれあい施策の事例と企画作成

●申込：平成10年12月10日まで

### 会員異動

#### 【加入】

○杉浦直樹(西三河支部)(0564-53-1312)  
444-0858 岡崎市上六名町1-1-1

#### 【脱退】

○中根 光(尾張支部)  
○三輪治代美(尾張支部)  
○矢田嗣雄(名古屋支部)  
○渡部由美(名古屋支部)

#### 【住所変更】

○木村直人(尾張支部)(048-462-0562)  
484-0041 犬山市長者町1-201



—自然観察会実施結果—

6/28 (日) 美浜地区

大川で実施。ここの川は三面張でなく、泥、砂、草原が多く、川の生き物観察会に適した二級河川です。上流に行く人、草地にタモを掛けて足で獲物を追い出す人、下流から獲物を取りながら来る人、水遊びをする子、動物の糞を見つけて喜ぶ人や祖母は土手の上で孫と遊び母は川の中というように、皆いろいろと活躍し、楽しそうでした。

ミズカマキリ・コオイムシ・ギンヤンマ・ガムシ・マツモムシ・アメンボ・コガタシマトビケラ・タニシ・サカマキガイ・イシマキガイ・オカモノアラガイ・カワニナ・シジミ・イシマキガイ・ベンケイガニ・モクズガニ・ヤマトヌマエビ・テナガエビ・アメリカザリガニ等

〔池田、大橋、加藤、金内、榊原(増)、降幡、皆川、村瀬〕

7/ 5 (日) 東浦地区

「明覚池のトンボ」をテーマに実施。高根の森Pに集合し、明覚池に移動する。池の東側から北へ、更に西へと回る。ガマ・ヨシ・アカザ等が多く生育していた。ウチワヤンマ・ギンヤンマなどの大型トンボが悠々と水面をパトロールしている。池の西側は草地・土手・雑木林があり、コシアキトンボが数多くいた。近付いてタモをふるってもコシアキトンボは高い空に逃れる。背を低くするとトンボは、低空に舞う。

コシアキトンボ・アオモンイトトンボ・クロイトトンボ・モノサシトンボ・カトリヤンマ・ギンヤンマ・ウチワヤンマ・オオヤマトンボ・シオカラトンボ・ショウジョウトンボ・コフキトンボ・マユタテアカネ・チョウトンボ・ウスバキトンボ

〔池田、板倉、岩崎、加藤、芝山、原、村井、村瀬〕

7/12 (日) 常滑地区

松原公園で観察会。山道は緑陰で包まれ、涼しい感じで行動、見晴らしのよい東屋で一休みした。子どもたちがスズメバチを見つけて大騒ぎになった。展望台を見ながら帰路につく。駐車場でキノコの観察。

ヤマドリタケモドキ・スジオチバタケ・ヒナノヒガサ・コツブタケ・アラゲカワラタケ・カワラタケ・ウマノケタケ・キバナイグチ・ツルタケ・アマタケ・カレハキツネタケ・キヒダタケ・カレエダタケ

〔池田、大橋、加藤、榊原(正)、榊原(増)、芝山、中井(三)、花井、原、降幡 村瀬、吉村〕

7/24・25・27 東浦町新田公民館 子ども教室

24日午後は、山王川でカニの観察と海岸の干潟で生き物調査をする。一日雨でした。カニは、ヤマトオサガニ・イソガニ・チゴガニ・アシハラガニ・アミメキンセンガニ・マメコブシガニ・オサガニ等。

25日は石浜の堤防でバードウォッチングを行う。双眼鏡は各自が持っていた。コサギ・ダイサギ・アオサギ・ケリ・イソシギ・カルガモ・カイツブリ・ホシハジロ・コアジサシ・ユリカモメ・トビ・ツバメなど。

27日は明徳寺川に入って、水タモで水草の縁をガサゴソ探し、川石をさらえたりする。夜明けに雨が降ったため、水かさが多く、流れも早かった。タイリクバラタナゴ・ウナギ・ナマズ・ブラックバス・モツゴ・ドジョウ・フナ・マハゼ・メダカ・コイなどの魚等を観察。

〔加藤、中井(康)、原、降幡 皆川、村瀬、吉川〕



## 行 事 案 内

### ☆フォローアップ研修会「クモの観察」ー尾張支部担当ー

期日：平成10年9月13日（日） 9：30～12：00

場所：善師野周辺（犬山市）（集合：名鉄広見線「善師野」駅）

講師：須賀瑛文

・クモはどうもと言っている方、クモも自然観察の材料として面白いものですよ。

### ☆フォローアップ研修会「地質と海岸の植物」ー知多支部担当ー

期日：平成10年9月23日（休） 9：30～12：00

場所：美浜町（集合：小佐水産試験場前）

・海岸の生物は、子どもたちにとって格好の観察材料です。他の支部の方はなかなか接する機会がありませんが、子どもに返ってみませんか。

### ☆話題の地見学会「万博予定地の見学」〔自然との共生を考える〕

期日：平成10年10月10日（休） 10：00～14：00頃

場所：万博予定地（集合：愛知環状鉄道「山口」駅）

・山道を歩ける服装で、昼食持参。

### ☆フォローアップ研修会「愛知県のブナ林」ー奥三河支部担当ー

期日：平成10年11月3日（休） 10：00～14：00

場所：段戸裏谷（集合：裏谷入口駐車場）

・秋の一日を段戸のブナ林で過ごしてみませんか。いろいろな発見がありますよ。

★問合せ先：いずれも佐藤（☎05617-3-5674）まで

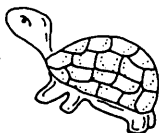
### ●自然なにかとアンケート●

機関紙のシリーズとして、自然に関するアンケートを時々行っています。第6回は「今年のおかしな生物現象」をテーマにします。

植物の開花、動物の初見、生物の生態等であつたことなどを、編集部（近藤）までお寄せください。今回は、10月5日までにお願いします。

### ✪ 編 集 後 記 ✪

梅雨明け宣言のない地方もあり、これも異常気象なのでしょうか。何が異常なのか、わかりにくくなりつつあるような気がします。（近藤）



### ＝ 目 次 ＝

雲と天気の話③ .....	1
自然志向 .....	7
子供とあそぼう会 .....	8
あなたはピン派かカン派か .....	9
会員紹介 .....	11
藤原優年 .....	
アンケート⑤-2 里山の自然 .....	11
山びこ広場 .....	12
冊子紹介 .....	
教えてください .....	
事務局から .....	13
支部だより（知多） .....	14